

國學院大學学術情報リポジトリ

「っぽい」「くさい」「らしい」の接尾辞用法とそこから派生したモダリティ用法

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學国語研究会 公開日: 2025-06-02 キーワード (Ja): っぽい, くさい, らしい, 接尾辞, モダリティ キーワード (En): 作成者: 山本, 楓 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001705

「っぽい」「くさい」「らしい」の接尾辞用法と そこから派生したモダリティ用法

山本 楓

キーワード：っぽい、くさい、らしい、接尾辞、モダリティ

1. はじめに

本稿では、形容詞を作る接尾辞「っぽい」「くさい」「らしい」について扱う。特に「っぽい」は変化（用法の広がり）の途上にあると思われるので、その様子を観察し、またこの3語は意味が近いので、3語を見比べる意味もあろうと考えてのことである。さらに、3語いずれについても、「接尾辞用法（旧用法）」と「モダリティ用法（新用法）」があり、どの語も、前者から後者が派生したという同様の変化が観察でき、興味深い。これについてもとりあげる。これら3語については、それぞれ、用法を分析した先行研究が多くあるが、以下では、それらを組み立て直し、本稿としての用法の整理を示しながら、論を展開する。第2節で「っぽい」、第3節で「くさい」、第4節で「らしい」を扱い、第5節で3語が同様の変化を辿っていることについて触れて、結びとする。

2. 「っぽい」について

接尾辞「っぽい」は、以前は「水っぽい」「怒りっぽい」など、限られた前接語にしか結びつかない言葉だったが、近年、用法が広がり、結びつく前接語も増えてきた。まず、この様子を観察・分析する。

2.1. 新用法と旧用法

先行諸研究のうち、小出（2005）は、「っぽい」には旧用法と新用法があ

るとし、両者の主な違いについて以下のようにとらえている。まず、旧用法とは、以下のようなものである。

- (1) 彼は相当忘れっばい。(小出 (1) a)
- (2) この酒は水っばい。(小出 (1) b)
- (3) 嫌味っばい性格。(小出 (1) c)

前接語は基本的に名詞としての性質を備えているものに限られる(「忘れっばい」のような場合は、動詞の連用形だが名詞相当と見ることができると、小出は見る (p.1))。

一方、新用法は以下のようなものである。

- (4) どーも明日は雪が降るっばい。
(小出 (2) a、<https://www.biwa.ne.jp/~okada/2001.html>)
- (5) 同じ回転数でも薄型より厚型 (というか、普通の厚みのやつ) の方が静かでいいっばい。(小出 (2) b、<http://www.alpha-net.ne.jp/users/sorano/essay/s200305.html>)
- (6) やすこちゃむと静夜さんに会ってみたいっばい～ (小出 (38)、<https://www.tiarac/~lxxa/bbs/10.html>)

新用法は、名詞以外を前接語とし、「っばい」はモダリティにかかわるものであると、小出は捉えている (p.8)。小出 (2005) は、以上の両用法の存在を述べ、「旧用法」「新用法」と名づけを行い、「新用法」はモダリティの表現だと指摘した、このすべてを扱った最初の論文のため、本稿でも小出によって紹介したが、小出 (2005) の新用法にあたるものの存在については、小出よりも早く、あるいは同時期に、小松・木村 (1997)、庵ほか (2000)、ケキゼ (2003)、小島 (2003)、尾谷 (2005)、砂川 (2005) にも指摘があり、その後も、久保 (2008)、岩崎 (2009, 2011a)、梅津 (2009)、小原 (2010)、佐藤 (2015)、中村 (2019) の各研究でも言及されている。

一方、「っばい」のうち、小出のいう旧用法にあたるものについては、上記の諸研究の他、国松（1970）、中島（1983）、森田（1989）、飛田・浅田（1991）、石島（1994）、野村（1994）、山下（1995）、門倉（1996）、頼（1999）、田村（2004）、黄（2004）、竹島（2010）、濱田（2010）がとりあげている。

2.2. 「っばい」の用法の観察

まずは、旧用法について見る。旧用法について、先行研究の状況を略述すると、次のようである。

<1> 旧用法の「っばい」は、意味的にマイナスの印象を付与する（あるいは付与する場合がある）という指摘が見られる¹（論者によって細部に違いがあり、自然物及び自然現象の場合だけについてマイナスと主張している人もいる）。

<2> 旧用法の「っばい」をいくつかに分類してとらえようとしているが、それら旧用法全体を通しての意味を抽出しようとはしていない。

<3> 旧用法の「っばい」の前接語が増えているという指摘が見られる。

このうち、<1>については、山本（2023）でとりあげ、この指摘は該当する場合もあるが、該当しない場合もあり、「っばい」は基本的にはニュートラルな表現であることを指摘した²。この点は、本稿では改めてとりあげない。

本稿では、以下<2> <3>について先行研究を補強したい。まず、例として、特に多義的である「骨っばい」をとりあげて観察し、これをもとに「っばい」の意味用法を整理する³。その結果、先行研究では指摘されていなかった（ただし旧用法に属する）タイプの用法も見出せたので、この全体をもとに「っばい」の共通の意味を抽出する、というように論を進める。用例の収集には、書き言葉均衡コーパスや新聞記事検索サービスなどを用いた⁴。

収集した用例の「骨っばい」の使い方は、5つに分類できた。以下の①～④は小出（2005）のいう旧用法、⑤は新用法である。

2.2.1. 旧用法の諸例と分析 —「骨っばい」を例に一

2.2.1.1. 用法の整理

ここでは「骨っばい」の用法①～④までを示す。

① 魚や肉などに骨が多い

- (7) 骨も取られていて、身もふっくらしてとても美味しく、何度もリピートしてました。ただ、ここ何回か骨っばい身も痩せたものが多く、家族から大不評で困っています。(「フライパンで！国産さわらのカレーソテー」オイシックス公式ホームページ (oisix.com)
(<https://www.oisix.com/ShouhinShousai.ss> 8-8128-2140.htm))

② 痩せて骨ばっている

- (8) ポイントを覚えれば簡単！それは「三つの首」を出すことです。上から首、手首、足首。このきゃしゃで骨っばい部分をアピールすることで、ぐんと女性らしくなります。(朝日新聞「大草直子のおしゃれの時間 「三つの首」出して魅力プラス 女子組」2013.4.4夕刊)

③ しっかりしていて、気骨がある

- (9) ちなみに魏・呉・蜀の三国の書は、例外はあるものの、それぞれ特徴的で、魏が「どっしりと迫力みなぎる」のに対し、呉は「軽やかでのんびり」、蜀は数が少ないが「まじめで骨っばい」といった印象を受けるといふ。書風は国のあり方を映すのだろうか。(朝日新聞「美の履歴書：615 「玄莫帖」 諸葛亮 書に表れた人柄は」2019.8.27夕刊、夕刊 F 火曜 1 面)

④ 骨らしさを(たくさん)備えている

- (10) 何か変わった延長コードってないの？ と探してみたらありました。魚骨形の明和電機の延長用コード、「Na-Cord」。カラーは、さらに骨っばいページとクリアなタイプの3種類。使用時には目の部分のネオンランプが怪しく光るので、うっかりした電気のつけっ

ばなしも防げます。(岩本明子『POPEYE』2002年12月23日号 (No.647, 第27巻第23号), マガジンハウス)

(10) は、魚の骨の形をした電源延長コードについての説明で、形状だけでなく、色も骨の色に近いベージュのものを「さらに骨っぽい」と表現している。形状も「骨っぽい」し、ベージュであることがさらに「骨っぽい」というわけである。

2.2.1.2. 旧用法の共通の意味

以上のうち、①～③は先行諸研究が立てている「っぽい」の意味用法の範囲に収まるものである。先行研究では、①の「それ（前接する名詞）が多い」意、②の「それが目立つ」意、③の比喩的な意味という3つの意味についての指摘はあったが、①～③のどれとも違う④のようなものは、旧用法ではあるが、先行研究では指摘されてこなかった。このように用法を整理することで、④も含めて、①～④には、「骨」そのものや（場合によっては比喩的な意味での）「骨」の特徴を存分に持っている」というような共通の意味が見出せる。多くの先行研究では、名詞に接続する「っぽい」はいくつかに分類でき、それぞれに少しずつ異なる意味がもたらされることが指摘されていたが、分類したうえでそれら全体を貫く「っぽい」の意味については言及していなかった。本稿では、「っぽい」は、

前接語の特徴（前接語そのものの特徴、場合によっては比喩的な意味での前接語の特徴）を存分に持っている

ことを表すという一つの意味に収束できるのではないかとみたい⁵。

2.2.1.3. 旧用法の範囲での広がり

また、「前接語そのものや（場合によっては比喩的な意味での）前接語の特徴を存分に持っている」を表すという旧用法の範囲の中で、前接語の種類

が増え、プロダクティビティを高めてきている様子が先行研究からも見て取れる⁶。先行研究の一例を紹介すると、小島（2003）は、名詞に付く「っぽい」について、新聞から抽出した例を2つのグループに分け⁷、1つについて造語力が非常に旺盛だと指摘している。このリストの中から一部をピックアップすると、「アイドルっぽい」「インテリっぽい」「官僚っぽい」「教科書っぽい」「社会派っぽい」「優等生っぽい」「ロックっぽい」などが見られる。

初期の段階の「っぽい」の前接語は名詞で、その前接語も限られたものであり、「前接語（名詞）の特徴を存分に持っている」という意味を示すものだったが、次第にそのプロダクティビティが高くなり、その後、以下に見る「っぽい」の新用法（モダリティ用法）の出現につながったのではないかと考える。

2.2.2. 新用法の諸例の分析

以上、「骨っぽい」について旧用法①～④について見てきたが、この「骨っぽい」にも①～④とは異なる、文のモダリティに関わる新用法（⑤）を発見できた。

⑤（新用法）よくわからないが、骨であるらしい

- (11) 26日午後3時10分ごろ、福岡市早良区野芥4丁目の神社裏手にある斜面で、散歩中の近くの男性から「骨っぽいものがある」と110番通報があった。署員が駆けつけたところ、全身が白骨化した遺体が見つかった。（朝日新聞「身元不明の遺体発見 福岡・早良区 / 福岡県」2009.3.27朝刊、福岡・1地方）

小出（2005）は、

（4・再掲）どーも明日は雪が降るっぽい。（小出（2）a）

のような「っぽい」を「新用法」と名づけて、モダリティにかかわるものであるとし、この新用法は名詞以外を前接語とするとしているが、実は（11）のように、名詞に付く新用法も見出せる。（11）は名詞に付くモダリティの

新用法の「っばい」と見るべきものである。

他にも、コーパスから、名詞に付く用法の実例を確認することができた。

- (12) お隣が宗教関係っばいののですが、確かめる方法ありますか？
(Yahoo!知恵袋, 2005, <https://question.realestate.yahoo.co.jp/knowledge/chiebukuro/detail/1470879/>)

この例は「確かめる方法」を問題にしているので、ただ「宗教関係の特徴(雰囲気)がある」ことを述べる旧用法ではなく、「宗教関係なのではないか」と推測し「その可能性は高いが真偽はわからない」というモダリティを表したものと見られる。

このように名詞に付く「っばい」にも新用法のものがあることを指摘しておきたい。もっとも、名詞に付く新用法の「っばい」については、小出以外の先行研究(2.1参照)を詳しく見ると、実は一部ではすでに例があげられていた。それらでは「新用法」の名は使われていないし、「モダリティ」という指摘があるとも限らない。また、実例でなく作例の場合もあると推測するが、これらに触れておくと、

- (13) この椿はどうも佗助っばい。(小松・木村1997: 48)
(14) どうやら明日は雨っばい。(庵ほか2000: 397、ケキゼ2003: 33、(11))
(15) (はっきり見えないものについて) それ、橋っばいくない？(ケキゼ、同上、(10))
(16) どうやら Amazon が最安値っばい。(尾谷2005: 270、(58d))

などが、早い時期のものとして、見出せた⁸。

名詞に付く新用法の「っばい」の実例のおそらくもっとも早い指摘としては、

- (17) (国電車内で)「そろそろ品川じゃない」「ほんと品川ッポイわよ」(『言語生活』1977年5月号 p.72「耳」欄の読者投稿。見坊(1977: 74)、

松井（1983：156）でも引用されている）

が見出せた⁹。

旧用法についてはマイナス評価と見られる場合もあることに触れたが、新用法は評価性はない。

2.3. 変遷

以上のように、①旧用法がその前接語の範囲を、限られた名詞から様々な名詞へと広げてプロダクティビティを高め、②そこから名詞に付くモダリティ用法の「っばい」（新用法）が生じ、③新用法の「っばい」はさらに他の品詞に付くように（文に付くように）広がった、と見られそうである。

新用法の中で名詞に付くものが早いと見られるのは、旧用法が名詞に付くもので、そこから生まれたと見られることと、上述の通り、早い時期の新用法として、名詞に付く例が発見できたからである。その後、名詞以外に付く新用法へと広がったと考える。

3. 「くさい」について

「っばい」と同様に、類語の「くさい」にも旧用法（接尾辞用法）と新用法（モダリティ用法）が存在し、後者には文に付く用法もある¹⁰。

まず、旧用法の範囲の中での用法の記述を一部改めていきたい。

3.1. 旧用法について

「くさい」を扱い、用法の分類を行っている主な先行研究は、森田（1989）、斎藤（1995）、山下（1995）、門倉（1996）である。これらを参考に本稿での整理を示す¹¹。収集した用例のうち「前接語＋くさい」の使い方は、次のように分類できた。

①「名詞＋くさい」

(A) その「におい」が感じられる（よくないにおい）

- (18) ホームに降り立つと同時に、湿りけのある、カビくさい空気が僕を包んだ。その匂いが、この駅がまだ再開されて間もないことを物語っていた。(橋口譲二『新・ベルリン物語 上』情報センター出版局、1993)
- (19) ガス臭いとき、火気は厳禁です。すぐに東京ガスネットワークまでご連絡ください。(TOKYO GAS NETWORK「緊急の時は」、2023, <https://www.tokyo-gas.co.jp/network/emergencies/kusai/index.html>)

「名詞＋くさい」にこのように「実際ににおいが感じられる」というタイプの用法があることについては玉村 (1988)、森田 (1989)、斎藤 (1995)、山下 (1995)、門倉 (1996) にも指摘がある。該当する他の例としては、「汗臭い」「油臭い」「磯臭い」「酒臭い」「土臭い」「泥臭い」「生臭い」などがある。

(B) その「におい」を発しているような印象が感じられる(元は臭いがあったが比喩的な表現)

- (20) 「そもそも本当のお念仏とは、どのようにするのが一番いいのでしょうか」と聞いた。念仏と言うと、現代ではたいへん抹香くさく聞こえるかもしれないが、「真実の生き方、本当の悟りとはどういうものか」という必然の問いかけと受け取っていい。(栗田勇『日本文化のキーワード 7つのやまと言葉でその宝庫を開く』祥伝社、1993)
- (21) 「考えることないでしょ。もう戦争はしていないんだから」行彦は、その気になりつつあった。いまなら、行ける。隣のカンボジアは未だキナくさいが、ベトナムは大丈夫だろう。(笹倉明『ルアン 歳月』毎日新聞社、1999)

(20) の「抹香くさい」は寺でお香を焚くことから、それが「寺」特有のにおいとなり、(A) 同様、「そのにおいがしてくさい」意を示していたのか

もしれないが、この文脈では、「寺」特有のにおいがするのではなく、「抹香くさく聞こえる」ことから、「寺の要素を感じる」意味で「抹香くさい」という言葉が使われていると読める。(21)の「キナくさい」も、火薬のにおいが転じて、怪しい雰囲気を表す意としてこの文脈で使われていることがわかる。

以上のような例を上記 (B) として整理しておきたい。(B) の場合の前接語はかなり限られ、他に、「バタくさい」「泥くさい」「乳くさい」「糠味噌くさい」「青くさい」「土くさい¹²」などである。なお、これにほぼ対応するタイプを森田 (1989)、斎藤 (1995)、山下 (1995)、門倉 (1996) もそれぞれ立てているが、語義の細部の記述は論者によって違いがある。「そのにおいを発しているような印象が感じられる」というまとめ方は本稿のものである。

(C) その雰囲気が漂う ((B) よりさらに比喩的)

(22) 彼の映画に関して、藍子はあまりいい印象はない。つくった人間の生真面目さが表面化しており、説教くさい。これでは若い客は呼べないと危惧している。(山本幸久『男は敵、女はもっと敵』マガジンハウス、2006、岩崎 (2016: 例7))

(23) 貴之は行内の女性行員からの人気は高かった。普通の銀行員にイメージするような真面目で堅物という、いわゆる銀行員臭さがなかったからだ。がっしりした体軀に引き締まった顔。(江上剛『統治崩壊』光文社、2004)

(22) (23) もにおいを感じる意ではなく、(B) よりさらに比喩的である。他に、「教師くさい」「インテリくさい」「田舎くさい」「素人くさい」「学者くさい」「年寄りくさい」「ばばくさい」などがある。これに対応するタイプは、森田 (1989) にはないが、斎藤 (1995)、山下 (1995)、門倉 (1996) では立てられており、門倉 (1996) も「雰囲気」ということばを使って記述している¹³。

また、名詞に接尾辞「くさい」のついた語は、(A) ～ (C) のどの場合で

も、おおむねマイナス評価を表すと見られる¹⁴。

②「形容詞・形容動詞＋くさい」

- (24) このような世代間での相互無理解の根は深く、かんたんなことでは解決しない。私自身、上の世代の言い方を「古くさい」と感じ、下の世代の言い方を「幼い」と感じることはめずらしくない。(定延利之『ささやく恋人、りきむレポーター 口の中の文化』岩波書店、2005)
- (25) 反面で中国人が日本人よりもむしろ韓国人が好きな理由は、韓国人は器が大きくて性格が闊達だからだ。少なくとも「ワリカン」などというケチくさい習慣はないからだ。(金文学・金明学、蜂須賀光彦訳『刀を秘めた中国人』現代書館、1999)
- (26) お風呂に入るのがめんどくさい。

(24) では、「世代間での相互無理解」の話をしており、上の世代の言葉遣いに対して、「古い」ではなく、「古くさい」と感じている。「古い」という言葉を使っているのであれば、話し手の何らかの基準に基づいて、新しいか古いかを判断していることになるが、そうではなく、「古い」要素を感じ、「理解できない」という拒否したい感情をこめ、「古くさい」という言葉を使っているのだと見られる。(25) (26) も同様で「嫌」「不快」「拒否感」の感情がある¹⁵。②のタイプの語例としては他に、「邪魔くさい」「馬鹿くさい」「貧乏くさい」「あほくさい」「陰気くさい」などがある。限られた語に付き、プロダクティビティは名詞に比べて低い。

このように形容詞・形容動詞（特に、マイナスの意の語）に「くさい」が付く場合は、「嫌」「不快」「拒否感」の意を表現するのが特徴だと見られる。元々が形容詞・形容動詞であって、「くさい」が付いても形容詞なので、元の語の意味をそのまま引き継ぐだけでなく、そのような意が添えられると見るべきである。

この分類に対応する分類は、森田（1989）、山下（1995）、門倉（1996）の

三者とも立てているが、森田（1989）は「照れくさい」を混ぜており、山下（1995）の分類では、形容動詞だけがこれにあたるとしている。門倉（1996）は品詞については言及していない。

なお、この用法の語義記述の中で、門倉（1996）は「語幹部分の意味を強調している」、山下（1995）では「話し手が対象に抱いた感情や判断を強く表す」、森田（1989）では「感情性を強調するだけの働き」としているが、上述のような意味が添えられている点が重要だと見るべきで、「強調」と述べて済ませる記述はあたらないと考える。

③「動詞＋くさい」

「くさい」が付く動詞の語例は少ない。ほぼ「焦げくさい」「照れくさい」だけである¹⁶。

(27) パンを焼きすぎた。部屋が焦げくさい。

(28) 感謝されたりすると、照れくさい。（矢野徹・高橋敏也『多元宇宙バトル・フィールド』早川書房，1990）

(27) では、「パンを焦がしたことによるにおいがしてくさい」意味で「焦げくさい」を使っている。この場合、①（A）と同様「そのにおいがする」意である。

(28)「照れくさい」には、においががないため、(27)と同じように解釈することはできない。これまで見てきた、名詞に付く場合とも、形容詞に付く場合とも異なっている。動詞に「くさい」を付け、品詞を形容詞に変えるのみの働きだと見られる。森田（1989）と門倉（1996）は「照れくさい」を形容動詞語幹の類と同じグループに入れ、マイナス評価の語であるとしているが、本稿では、「照れくさい」は「形容詞＋くさい」と違い、「嫌」「不快」「拒否感」の意を付与せず、マイナス評価の語ではないと見る¹⁷。「くさい」がマイナス評価でない珍しい例である。

3.2. 新用法について

新用法の「くさい」はモダリティを表す用法で、例えば以下のようなものである。

- (29) 「いや、有毒ガスを出す物がなかったのが幸いですよ。一番怖いのは煙だ。しかし、こいつはどうも不審火くさいですな」「と言いますと……」「火の気の全くない所でしょう。よく調べて見なければわからないが、放火という疑いは当然起こります」「放火!」(赤川次郎『女社長に乾杯!』新潮社, 1982, 岩崎2016 (5))
- (30) しかし、競輪には八百長が多いというところに便乗して、八百長くさいと独断するや、モップ化して騒擾を起し、売上金を強奪するに至っては、これは逆に素人衆の賭場荒しである。(坂口安吾「便乗型の暴力 競輪その他」, 読売新聞 第二六二八〇号, 1950, 岩崎2015 (7))

上例では、「(よくわからないが) …だと推測される」「…の可能性が高い」という意が「くさい」によってもたらされている。接尾辞起源の「くさい」にこのようなモダリティを表す用法があるという趣旨の指摘は、池上(2013: 31-32)、岩崎(2015, 2016)にある¹⁸。

池上と岩崎は、モダリティに関わる用法の例として、名詞ではなく、次のような文に付く用例もあげている¹⁹。

- (31) どう考えてみても日本側の方で権利を放棄したくさいというようなことはお答えいたしておりますけれども、(略)(国会会議議事録「衆-外務委員会-5号」発言者: 福島慎太郎, 1955.5.11, 池上2013 (11)、岩崎2016 (28))
- (32) 政府当局の方では、これはどうもアメリカの秘密を盗んで公表したくさいと思い、本人はそんなことは全然知らないで、全くそれとは無関係に自分が発明して公表したという場合に、それを捜査するといってもがえんじないことができると思うが、それを強制してその

資料を押収し調査するというのですか。(国会会議議事録「衆－外務委員会-44号」発言者：松本七郎，1955.5.16，池上2013（12），岩崎2015（12），岩崎2016（29））

（29）～（32）はよくない事態の可能性が高いことを示す。「くさい」がモダリティ表現の場合に、「よくない事態」について使われやすいのは、「くさい」の原義や接尾辞用法の「くさい」の影響を受けているためであろう。

本稿でも新用法の例を発見することができた。そのうち4例を示す。

- （33）課長になりたての若さにして、この落ち着き払った人を食ったような態度に、どこか偽物臭さを感じた。それ以来私は、斉藤に気に入られようと集まる同僚たちの振る舞いを注視し続けた。（天木直人『さらば外務省！』講談社，2003）
- （34）古典的なブービートラップだ。銃を持ってホテルを占拠しようとした点といい、どうも行動がテロリストくさいと梨々は思っていたのだ。（田口仙年堂『吉永さん家のガーゴイル』エンターブレイン，2005）
- （35）ライブドアは今マザーズと呼ばれる新興市場で株が取引されています。（中略）しかし今やライブドアは会社の規模、社会的影響力からして東証1部に昇格してもおかしくないと思います。株価の勢いや動きからしても1部昇格くさいのですね。（yahoo 知恵袋，2005）
- （36）＜今日の荒木＞4打数2安打 1回はきれいに右前。2回は一死から中前→盗塁死。でも、リプレイ見るとセーフくさいんだけどなあ（「かめちきの風に吹かれて」，<https://blog.goo.ne.jp/kame02-2005/e/39775af214a11d004734d934392a77c4>）

（33）は、「偽物の可能性が高い」の意、（34）も「テロリストの可能性が

高い」の意で「くさい」が使われている。(29)～(32)と同様、「よくない事態」である言葉に「くさい」が付いている例である²⁰。

一方、(35)は、「1部昇格する可能性が高い」の意で「1部昇格くさい」が使われている。「昇格」という言葉は「良くない事態」ではなく、「くさい」が付いているがマイナスの評価を示していない、ニュートラルな例であるだろう。なお、「1部昇格」は、形は名詞だが、「1部に昇格する」という文に近いと考えられることから、文に付く新用法に通じると考えることもできよう。(36)は野球の試合を見て、盗塁が失敗（アウト）と判定されたことについて、「セーフだった可能性が高い」と述べたものである。

このように、「くさい」にも旧用法と新用法を確認することが出来る。「くさい」の旧用法の評価は、多くの場合、マイナスである²¹。新用法も、(29)～(34)のように多くの場合、マイナスであるが、(35)(36)のように、一部ニュートラルな例も存在する²²。

3.3. 変遷

「くさい」の使用方法の変化については、岩崎（2016）が、接尾辞用法からモダリティ用法が生じたと見られることを事例で追っており、「くさい」も「っぽい」同様に変化が起きていたことがうかがえる。

4. 「らしい」について

「っぽい」「くさい」については、以前から存在する接尾辞の用法（旧用法）から、近年、モダリティを表す用法（新用法）が生じて来たことが見て取れた。一方、「らしい」については、「コロナ禍で仕事が減って、最近あまり仕事らしい仕事をしていない。」のような接尾辞の用法と、「これが、私のすべき仕事らしい。」「どうやら彼は失敗したらしい。」のような助動詞（推量、モダリティ）の用法を区別して、両方が存在すると認めることが、以前から国文法でも行われてきた。実は、この2種類の「らしい」について、名詞に付く接尾辞の用法からモダリティの用法が発したのだということを、小島（1996）が実証的に示している。その意味で「っぽい」と「くさい」は「ら

しい」の歴史の後を追っていることになり、興味深い。

「らしい」については、先行研究で多くのことが明らかにされているため、それぞれの用法に関して簡単に先行研究の主な点を紹介したい。なお、「らしい」は、接尾辞の用法と助動詞の用法の両方の用法が、国文法ではこの呼称で確立されているが、ここでは「っぽい」「くさい」の場合に合わせて、引き続き、旧用法、新用法と呼ぶ。

4.1. 旧用法（接尾辞用法）

旧用法すなわち接尾辞の「らしい」について、山下（1995）はさらに2つに分類している。

第一のタイプは、例えば「男らしい」「女らしい」「人間らしい」「学生らしい」「春らしい」「正月らしい」「大阪らしい」「下町らしい」などである。このタイプについて、山下（1995）は「対象が、そのものの特徴や性格を十分に備えている様子である」という話し手の感じ方を表しているとする。品詞は名詞で、評価性を伴わないのが普通だとしている。例文を山下（1995）によって掲げると以下のような例である。

- (37) 飢餓にさらされた遊牧民の実態を科学者らしい克明さで観察記録する。(新聞, 山下1995 (6))
- (38) 正常でない気候の推移だったが、やっと九月らしいさわやかな秋晴れとなった。(新聞, 山下1995 (9))

(37) の「科学者らしい」とは、科学者が属性として持つ特徴をよく備えていると話し手が対象について捉えた判断を示し、(38) のように人間に関するもの以外の名詞に付く場合も、同様のことがいえる。「らしい」は、あくまで対象がNの持つ特徴や性格を十分に備えているという話し手の判断を示すもので、対象が実際にNかどうかは問題にしていないと山下（1995）は補足している。また、第一のタイプの「らしい」は、最も造語力を発揮するタイプだといえるとしている。

第二のタイプは、「可愛らしい」「汚らしい」「憎たらしい」「いやらしい」「もっともらしい」「わざとらしい」のように主として形容詞・形容動詞語幹、副詞に付くものであるが、この他、「愛らしい」「分別らしい」などのように名詞に付くものも挙げられている。名詞の場合も、前掲の「科学者らしい」「九月らしい」などの諸例とは異なると見ているわけであろう。このタイプのものを山下（1995）は、「対象が、話し手に、結合する語基が意味するような感情・感覚・状態を呼び起こすように感じられる様子である」という意味を表すものだとしている。例文は次のようなものである。

(39) しみだらけの汚らしい壁。(デジタル大辞泉)

(40) 憎たらしい口を利く。(デジタル大辞泉)

(41) かわいらしい坊やの声が流れてくる。(新聞、山下1995 (21))

この第二のタイプの「らしい」については、臨時的に「らしい」が結合し新たな派生語を形成することは少ない、つまり、プロダクティビティが低いと山下（1995）はしている。

この2つの接尾辞用法について、山下（1995）は第一のタイプについては上述のように、評価性を伴わないとしている。だが、本稿が見るところ、第一のタイプの「らしい」は、「そのものの特徴を十分に具えている」意味で、(37) (38)を見ると、肯定的に使われていることがうかがえる。また「自分らしく生きる」や「(警察官になって1年経った知人のことを)彼もすっかり警察官らしくなってきた」など多くの場合で肯定的に使われていると考えられる。「教師らしくない」など、「らしくない」と使われる場合の多くが否定的でネガティブなイメージが湧きやすいことから、「らしい」は多くの場合、肯定的な意味を持つといえる²³。

一方で、第二のタイプについて、山下（1995）はマイナス評価が比較的多いとしている。実際、上例でも「かわいらしい」「愛らしい」を除いてマイナス評価であることがわかる。

以上のような点も第一のタイプと第二のタイプの違いと見られる。

4.2. 新用法（モダリティ用法）

新用法すなわちモダリティ用法の「らしい」は、国文法で推定の助動詞「らしい」とされているものである。この「らしい」については、類義語「ようだ」との違いなども含めて多くの先行研究があるが、ここではモダリティ用法の「らしい」そのものに関心があるわけではないので、深くは立ち入らない。この「らしい」の用法に、「根拠のある推量」などとされるものと「伝聞」とされるものの大別して2種類がある。前者の例は(42)(43)、後者の例は(44)(45)のようなものである。

- (42) マリアムがロバの横顔を眺めて舌打ちしているとき、アハマドも、
同じことを考えていたらしい。(小島1996(1))
- (43) 居留守であることは気づかれていたらしい。(小島1996(2))
- (44) 雨が降るらしいから傘を持って出よう。
- (45) 折りたためるスマホが出るらしい。

4.3. 変遷

小島(1996, 2003)は「らしい」の変遷について、もともと接尾辞²⁴だったものが助動詞としての用法をも獲得してきたものであると見ている。「らしい」には接尾辞としての用法の中に「実際にはそうでないものを評してその性質を帯びていると表す用法」があり、この用法から「中身はわからない、つまり実態は不明だがそうであると推察される」という助動詞の「らしい」の用法が生まれてきたのだろう(小島2003: 37)としている。

5. 結び

以上、形容詞を作る接尾辞「っぽい」と類語の「らしい」「くさい」について、各語の用法を観察・分析した。その結果、各語にはそれぞれ、接尾辞用法とともに、実はモダリティを表す用法があることが見出せた。

各語の評価性について概観すると、「っぱい」の旧用法の評価は、基本的にはニュートラルで、新用法もニュートラルである。「くさい」の旧用法は、一部例外の語を除いてマイナス評価で、新用法の評価も旧用法と同様、多くの場合でマイナスである。「らしい」の旧用法は、二つのタイプに分かれ、第一のタイプは、ほとんどすべてがプラス評価、第二のタイプは、多くの場合でマイナス評価であり、新用法の評価はニュートラルである。

さらに、どの語についても接尾辞用法が先に存在し、あとからモダリティ用法が派生したという共通点も見出せた。この派生が、最も早く起こった「らしい」については小島（1996）に、「くさい」については岩崎（2016）に示されているが、3語について同様に接尾辞用法（旧用法）からモダリティ用法（新用法）が派生したという指摘はこれまで見られないようなので、本稿で提示してみた。このうち「っぱい」については、2.3で、①旧用法がその前接語の範囲を、限られた名詞から様々な名詞へと広げてプロダクティビティを高め、②そこから名詞に付くモダリティ用法の「っぱい」（新用法）が生じ、③新用法の「っぱい」はさらに他の品詞に付くように（文に付くように）広がった、という順序を推定した。「くさい」と「らしい」についても同様の順序である可能性がある。

注

¹ 国松（1970）、森田（1989）、飛田・浅田（1991）、石島（1994）、山下（1995）、門倉（1996）、小松・木村（1997）、頼（1999）、ケキゼ（2003）、久保（2008）、竹島（2010）。

² 例えば「水っぱい」は「水っぱい酒」のような例からマイナス評価だとされてきたが、「雪はまだ降っているが、大きな水っぱい雪なので積ることもなく、乗りものの停まる心配もなさそうだった。」（田辺聖子「鼠の浄土」『薔薇の雨』新潮文庫、2010〈作品は1989〉、p.38）は「水っぱい」であってもマイナスとは捉えられない例である。また、後掲の（8）～（10）もニュートラルと見られる例である。なお、「っぱい」自体にマイナスやプラスの意味があるわけではないという見方が、影山（1999：29）、黄（2004）にある。

³ この部分は、山本（2023）で行った「骨っぱい」の分析を簡略化して示すものである。

⁴ 参照したコーパスは現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）。そのほか新聞記事検索サービスには朝日新聞クロスサーチ・聞蔵2ビジュアル・毎索（マイサク）・ヨミダ

ス歴史館を利用。インターネット検索も用いた。

⁵ 先行研究では、わずかに久保（2008）のみが「っばい」の核となる意味として「上接語の典型的特徴を多く含む」としている。本稿は、例えば「水っばい酒」は、「水」の特徴を多く含むとはいえるが、「水」の典型的特徴を多く含むと見るのはあたらないように思うので、「典型的」は削除したい。

⁶ 石島（1994）、野村（1994）、山下（1995）、門倉（1996）、小松・木村（1997）、頼（1999）、小島（2003）、ケキゼ（2003）、田村（2004）、小出（2005）、砂川（2005）、久保（2008）、岩崎（2009, 2011a）、梅津（2009）、竹島（2010）、濱田（2010）、小原（2010）、佐藤（2015）、中村（2019）。

⁷ この分類自体は本稿では問題にしない。

⁸ 他に、久保（2008）、岩崎（2009, 2011a）、梅津（2009）、小原（2010）、佐藤（2015）、中村（2019）。

⁹ 岩崎（2013：9）では「っばい」の新用法の発生を昭和期の終わり頃以降と推測し、『言語生活』1982年6月号 p.93「耳」欄に「今日は雨ッポイ」とあるのが早い例だと見ているが、同欄が新しい用法として指摘しているのは、「ポイ」に「少な目」の「メ」をつけた、「ボメ」（具体例「雨ッボメ」）なので、新用法の「っばい」自体は上記（17）で指摘した『言語生活』1977年5月号の方が大分早い。

¹⁰ 「くさい」については旧用法だけを扱った先行研究として、玉村（1988）、森田（1989）、斎藤（1995）、山下（1995）、門倉（1996）があり、新用法について扱った先行研究として、岩崎（2015, 2016）、大上（2020）、両方扱ったものとして池上（2013）がある。

¹¹ 例文も主に本稿が集めたものである。

¹² （A）としての用法もあるが、「山やケモノのにおいがあふれてくるような土くさい映画」（新聞、山下1995（4））のように（B）としての用法もある。

¹³ また、以上の（B）（C）の区別をしてはいないが、玉村（1988）は、「-くさい」には「非嗅覚」の用法もある、としている。国語研究所（1972：107）にも、「「～くさい」の形の形容詞には、においの領域から、より抽象的な他の領域にも転じて使われているものが多い」という記述がある。

¹⁴ 「人間くさい」はマイナス評価とはいえない。「委員長には何か人間くさい、自分をカッコよく見せようとする野心が感じられて、それが親しみやすさをももたしている。」（三田誠広『僕って何』河出書房新社、1977、p.66）では、「人間くさい」で、悪くとらえられがちな側面を、親近感がわくなどのことから良くとらえている。「人間くさい」は、人間の持つ負の側面にも目を向けながら肯定的にとらえる語で、「くさい」が付きながらマイナス評価とはいえない珍しい例である。

¹⁵ この「くさい」の用法について、門倉（1996）は「「臭さ」のもつ不快感・拒否感のみ

を表す」と分析している。飛田・浅田（1991）では、「ふるくさい」「ばかくさい」について、「前にくる言葉の意味を軽蔑的に強める意味を表す。」と見ている。

¹⁶ 山下（1995）は、他に「すえくさい」「寝くさい」を挙げているが、あまり使われていないので本稿では扱わない。

¹⁷ 山下（1995）は「照れる」の語義を記述したうえで「照れくさい」は「そのように感じることを意味すると分析し、マイナス評価とは見ていない点、支持できる。

¹⁸ 池上（2013：31）は「文末外接形式」と呼ぶ。また、岩崎（2015：44）では「～の疑いがある」という「推量用法」、岩崎（2016）では「推量の判断」としている。モダリティという語については、岩崎（2016：49-48）は日本語記述文法研究会編（2003）に倣って「どうやら」「どうも」を「証拠性判断のモダリティと共に起する副詞」とし「くさい」は「どうやら」「どうも」と共に起する、というふうに使っており、「くさい」自体についてモダリティを表すという述べ方はしていないが、「くさい」自体がモダリティを表すとしてもいいのではないかと考える。

¹⁹ また、砂川（2005：113）にも、実例ではないが、「間違えてるくさい」「忘れてたくさい」といった表現が使われ始めているという指摘がある。

²⁰ ただし、(33)の「偽物臭い」は、例えば、警官と称する人や、ダイヤモンドと謳う宝石を見て、偽物ではないかという気持ちで「偽物臭い」と言うなら新用法であるが、(33)は、いわばエリートにふさわしい立派な人物ではないといった意味での「偽物」臭い、ということであろうから、「そういう意味での「偽物」の可能性が高い」という新用法だと見る余地もあろうが、また、旧用法の「くさい」を普通は使わない前接語に付けたような使い方、とも見られるかと思われる。旧用法と新用法をつなぐような興味深い例といえるかもしれない。

²¹ 「照れくさい」「人間くさい」のように一部ニュートラルな例もある。

²² 推量用法の「くさい」についてマイナス評価が薄い場合があること及びその例は、岩崎（2016：52, 46-45）でも指摘されている。

²³ 「男らしい」「女らしい」については、少なくともある時期まで、「男は男らしく、女は女らしくあるべきだ」のような考え方に拠って使われており、それが褒め言葉であった。だが、近年は社会の意識が変化し、「男らしさ」「女らしさ」という概念そのものが失われる傾向にあるなど、これらの語にプラス評価を認めない意識も生じていると見られる。

²⁴ 小島（1996, 2003）は「接尾語」としている。

付記

本稿は2023年1月に國學院大學大学院に提出した修士論文「「っぱい」「らしい」「くさい」について」を基に執筆したものである。菊地康人先生に感謝申し上げる。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.
- 池上尚（2013）「接尾辞－クサシ再考－古代・近代の使用状況から」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊』21, 25-38.
- 石島満沙子（1994）「接尾語「～っばい」に関する一考察」『北海道大学留学生センター年報』2, 45-53.
- 岩崎真梨子（2009）「形容詞性接尾辞「～ばい」の展開」『岡大国文論稿』37, 岡山大学文学部言語国語国文学会, 66-76.
- 岩崎真梨子（2011a）「「～ばい」の意味用法と展開」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』31, 83-96.
- 岩崎真梨子（2011b）「「～らしい」の連体用法に関する考察」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』32, 139-158.
- 岩崎真梨子（2013）「形容詞性接辞のレアリティに関する考察－「～ばい」「～らしい」「～みたい」－」『八戸工業大学紀要』32, 1-20.
- 岩崎真梨子（2015）「接辞「～くさい」の「疑い」」『筑紫日本語研究』2015, 筑紫日本語研究会編, 43-52.
- 岩崎真梨子（2016）「接辞「～くさい」の推量的判断に関する一考察」『岡大国文論稿』44, 岡山大学文学部言語国語国文学会, 60（左1）-43（左18）.
- 梅津聖子（2009）「現代日本語にみる接尾辞「ばい」の広がり」『拓殖大学日本語紀要』19, 55-64.
- 大上紗弥（2020）「句に下接する「くさい」について：アンケート調査に基づいた「ばい」との比較を通して」『さいたま言語研究』4, 埼玉大学大学院人文社会科学研究所日本語専攻内 さいたま言語研究会, 26-37.
- 尾谷昌則（2005）「接尾辞ボイのモダリティ化」『日本語用論学会大会研究発表論文集』1, 17-24.
- 小原真子（2010）「接尾辞「～ばい」について」『島大言語文化』29, 島根大学法文学部, 59-76.
- 影山太郎（1999）『形態論と意味』, くろしお出版.
- 門倉正美（1996）「くさい」「っばい」芳賀绥 編『あいまい語辞典』東京堂出版, 89-90, 238-239.
- 国松昭（1970）「「ばい」雑考（接尾語ノートⅠ）」『日本語と日本語教育』2, 慶応義塾大学国際センター, 185-208.
- 久保有佐（2008）「現代語における接尾辞「ばい」の用法」『玉藻』44, フェリス女学院大

- 学国文学会, 左 1-10.
- ケキゼタチアナ (2003) 「「ばい」の意味分析」『日本語教育』118, 27-36.
- 見坊豪紀 (1977) 「ことばのくずかご 第168回」『言語生活』311, 74-77.
- 小出慶一 (2005) 「接辞「～ばい」の用法の広がり—「雪が降るっばい」という表現はどのように成立したか—」『群馬県立女子大学紀要』26, 1-13.
- 黄其正 (2004) 『現代日本語の接尾辞研究』溪水社, 147-160.
- 国立国語研究所 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』(国立国語研究所報告44) 秀英出版.
- 小島聡子 (1996) 「「らしい」について」『山口明穂教授還暦記念 国語学論集』明治書院, 563-578.
- 小島聡子 (2003) 「接尾語「ばい」の変化」『明海日本語』8, 明海大学日本語学会, 31-38.
- 小松裕子・木村秀次 (1997) 「「接尾辞「ばい」小考」『明海日本語』3, 明海大学日本語学会, 41-51.
- 斎藤倫明 (1995) 「語構成と意味—合成形容詞「～くさい」を例として考える—」『国文学解釈と鑑賞』60-1, 55-62.
- 佐藤しずか (2015) 「接尾辞「～ばい」について—形容詞に接続した用例を中心に—」『第13回日本語教育研究会集予稿集』6-9.
- 砂川有里子 (2005) 「間違ってるっばい」北原保雄編『続弾! 問題な日本語』大修館書店, 110-114.
- 竹島奈歩 (2010) 「接尾辞「ばい」と共起する名詞について: 新聞記事の見出しを例に」『同志社大学日本語・日本文化研究』8, 同志社大学日本語・日本文化教育センター, 20-37.
- 玉村千枝子 (1988) 「嗅覚と非嗅覚—合成語「～くさい」をめぐる」『月刊日本語』1-61, アルク, 60-64.
- 田村泰男 (2004) 「接尾辞「ばい」が結び付く語句について」『広島大学留学生教育』8, 37-44.
- 中島由美 (1983) 「～ラシイ・～ッポイ・～クサイ」国広哲弥 編『意味分析』東京大学文学部言語学研究室, 60-62.
- 中村真子 (2019) 「接尾辞「ばい」の用法の拡大について」『思言 東京外国語大学記述言語学論集』15, 203-210.
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法 4 第8部 モダリティ』くろしお出版.
- 野村雅昭 (1994) 『日本語の風』大修館書店.
- 濱田佳苗 (2010) 「接尾辞「ばい」について」『愛知大学国文学』49, 85-99.
- 飛田良文・浅田秀子 (1991) 『現代形容詞用法辞典』東京堂出版 (該当頁 204-206, 497-498, 591-592).

松井栄一（1983）『国語辞典にない言葉』南雲堂（該当頁156-172）.
森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店（該当頁383-384, 1023-1025, 1205）.
山下喜代（1995）「形容詞性接尾辞「～まい・～らしい・～くさい」について」『講座日本語教育』30, 早稲田大学日本語研究教育センター, 183-206.
山本楓（2023）「「っばい」について」『国学院大学日本語教育研究』14, 70-84.
頼錦雀（1999）「「～まい」形式について」『東呉日語教育学報』22, 東呉大学日本語文学系, 91-116.

参照したコーパスなど

【コーパス】

現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）(<https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/index.html>)
（最終閲覧日：2022年11月12日）

コーパス検索アプリケーション「中納言」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)（最終閲覧日：2022年11月12日）

【新聞記事検索サービス】

<朝日新聞>

朝日新聞クロスサーチ (<https://xsearch.asahi.com/>)（最終閲覧日：2022年7月23日）

<毎日新聞>

毎索 (https://dbs.g-search.or.jp/WMAI/WMAI_ipcu_login.html)（最終閲覧日：2022年6月13日）

<読売新聞>

ヨミダス歴史館 (<https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>)（最終閲覧日：2022年7月4日）